

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 鳶尾小 学校

厚木市教育委員会の基本目標		1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】		校長名 永桶千秋
学校教育目標		学校経営の方針		
心豊かに、共に未来をたくましく生きる児童の育成 《自分に自信と誇りを》		多様な人々とつながる温かい人間関係づくりを基盤とした新しい教育活動の展開を目指す。		
今年度の重点目標				
1 温かい人間関係づくりを基盤とした、学級経営、児童会活動、たてわり活動を推進する。 2 各学年・各教科の学習指導や、特別支援教育、特別活動など、地域の資源・人材を積極的かつ計画的に活用し、多様な人々とつながる地域に開かれた学校づくりを推進する。 3 多様な価値観にふれ、時間や国境を越えて様々な人々とつながる読書活動を推進する。 4 自然体験や栽培活動などを通して、いのちや自然を大切にする心情や、総合的な生きる力を育む。 5 教職員が子どもたちとしっかりと向き合えるような時間の確保、新しい教育課題について学ぶ時間の確保、心身の健康維持のための働き方改革を推進し、お互い助け合い、チームとして教育活動を行う風通しの良い職場づくりを目指す。				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校は、学年だよりや学校だより、学校HPや緊急連絡メールを活用して情報発信をしている。	3	学校は、学校便りやホームページ・連絡メール等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供する。「鳶尾小スタンダード」の周知徹底を図る。	・保護者・地域の方に学校の経営方針、教育活動の様子を学校便りやホームページなどによって情報発信することができた。 ・指導上の共通理解内容として、「鳶尾小スタンダード」を随時参照する意識が教職員間に定着してきた。 ・欠席等連絡について、フォーム活用が保護者に定着してきた。また、連絡メールが各家庭に確実に届いているかを毎月1回テストメールを配信し確認した。外国籍の家庭については、配慮が必要である。	・鳶尾スタンダードについては、グループごとに見直しをし、全職員で来年度に向けての共通理解を図った。 ・連絡メールで情報が確実に伝わるように、定期的に確認する。日本語指導協力者の力も借り全世帯に内容が確実に伝わるようにする。
特色ある学校づくりとして、自然体験や朝読書・学校図書館の活用など、読書活動の推進に努めている。	1・2・3	読み聞かせボランティアや教員や図書委員による読み聞かせを年間を通して、計画的に行う。おすすめの本などの紹介コーナーなども作り、児童の読書への興味・関心を高める。	定期的な読み聞かせや、おすすめの本の紹介、また中央図書館からの本の貸出等を利用し、学級文庫も充実しており、児童は本によく親しみ、視野を広げ、豊かな心の育成の一助となった。週一時間の図書館での読書活動の際も、学校司書による本の貸し出しが定着している児童も多く見受けられる。また、校内研究に読書活動の推進を位置づけ、その取組を他校に発信した。	読み聞かせボランティアの活動は、どの学年の児童もとても楽しみにしている。来年度以降も継続して実施していく。校内研究のテーマに国語の「読む」活動を位置づけ、様々な手法で読書の楽しみを味わわせたり、文章を読んで理解したり考えたりする活動を充実させる。

特色ある学校づくりとして、食育を意識した学校農園を活用した栽培活動に取り組んでいる。	1・2・3	生活科や理科、総合の時間を利用したり、栽培委員会が中心になり活動したりして食に関する意識を高める。	総合的な学習の時間の計画に栽培活動を位置づけ、各学年で計画的に栽培活動に取り組めるようにした。季節ごとに育てる野菜や植物を変え、土づくりから栽培まで一貫して活動することや育てた野菜を給食の食材に利用することで感謝の心と豊かな心の育成を育んだ。地域や保護者に呼びかけて、栽培ボランティアを募り、協力を仰いだ。	持続可能な栽培活動になるよう、一層、地域の力(人材)の活用を推進していきたい。
学校の環境整備が行き届いており、児童が快適で安全に学校生活を送れるようになっている。	1・2	定期的な安全点検を繰り返し、不具合が発生したらすぐに修繕するよう努める。	校舎の老朽化が進んでおり、水道管の不具合や雨漏り、教室の本棚の破損などが散見された。安全点検で不具合を発見し次第、職員で修繕したり、学校施設課に依頼したりして、可能な限り改善した。	引き続き、環境整備・安全確保に努める。
学校では、PTAと地域との連携を積極的に進めている。学校はコミュニティスクールとして、地域の教育力を日常の指導の中に活用するように意識を高めている。	2・3	PTAと密に連携を取り、計画に則った活動の推進に努める。また、令和6年度からの地域学校協働活動本格実施に向け、教職員やPTA、学校運営協議会等においてその趣旨の周知に努める。	教育課程編成の工夫で、これまで教育課程外で希望者のみが参加していたPTA主催イベントに全校児童が参加できるようにした。また、中断されていた世代間交流を再開させたり、学校行事に地域の方々を招待するなど、コロナ禍で下火となっていた各種行事を再興させる取組を行った。	児童数が減少し、単学級の学年が増加することが予測されるため、これまでのような考え方では、PTA活動がままならなくなる。継続するもの、大胆に改変するものを精査し、持続可能な形を模索したい。
鳶尾小の学区は児童にとって安心・安全である。	2・3	地域や行政と連携し、放課後こども教室や児童館の積極的な利用を促す。自治会長懇談会を年3回実施し、地域の方々との情報交換を定期的に行い、学校と地域が協働して児童の育成に努める。	鳶尾小の学区は、豊かな自然や数多くの公園などに恵まれ、安全・安心に放課後や休みの日に過ごすことができていると感じている、児童や保護者が非常に多い。また、児童館や放課後こども教室の利用も非常に多い。課題としては、公園での遊び方やごみの片づけなどがあるので、定期的に注意喚起していく必要がある。	引き続きPTA行事や地域の行事など、学校運営協議会や公民館とも協力しながら児童が安心して安全快適に過ごすことができるようにしていく。
学校全体で情報が共有され、教職員主体で課題に対応している。	1・2・3	校務上の連絡事項や、児童指導案件などを全職員に漏れなく共有したり、学校の課題を全職員で共有・検討できるような仕組みづくりに努める。	校務支援システムを活用し、連絡事項を全職員が随時確認できるようにした。児童指導連絡会を月2回開催したり、児童指導案件をExcelに集約して共有したりして、全職員で情報共有に努めた。学校評価では、ICTを活用して、各意見を全職員が相互参照・相互評価できるようにしたことで、課題を共有したり、改善に向けた活発な議論を促したりすることができた。	ICT活用による情報共有の仕組みを今後一層推進していく。児童指導案件の報告については、教職員の意識に若干の差が見られたので、研修等を通して啓発を徹底する。非常勤職員の校務支援システム活用を徹底する。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校教育目標の具現化に向けた取組について理解していただき、概ね達成できていることを評価していただいた。また、昨年度課題だった、地域の方々への挨拶については、一定の改善が見られたという意見を複数いただいた。一方、学校の宿題以外の家庭学習についてはやや評価が低かった。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標に基づき、学校として組織的に、また個々の職員も創意工夫しながら積極的に取り組み、概ね成果を上げることができたと考える。来年度も、「心にエネルギーを」のスローガンを継続しつつ、今年度の取組を一層徹底・充実させ、豊かな自然と地域の教育力を活用した地域に開かれた学校づくりを目指していきたい。